

4.3 知っておきたい検索のポイント

データベースの検索をする時には、いくつか注意する事があります。ここに挙げているのは、どのデータベースの検索にも共通した注意点です。

1. ふさわしい言葉を選ぶ

例えば「コンピュータ」と「電子計算機」、「盲腸」と「虫垂炎」など人によって書き表し方や思いつく言葉はさまざまです。

データベース検索では、検索語（キーワード）となる言葉は、最もふさわしいものを選ぶことが大きなポイントです。また検索語は1つだけではなく、同義語や関連のある言葉を考えて、検索を色々試してみることが必要です。

2. 検索語を組み合わせる

検索語が決まったら、さっそく検索です。検索には1つの検索語だけで求めていた結果が出てくる場合もありますが、条件に応じて下記のように、いくつかの検索語をAND、OR、NOTなどの論理演算子でつないで検索すると効率的な検索ができます。

AND 検索（いずれも含む）

AとBのいずれも含むものを検索したい場合には、AND（いずれも含む）でつなぎます。

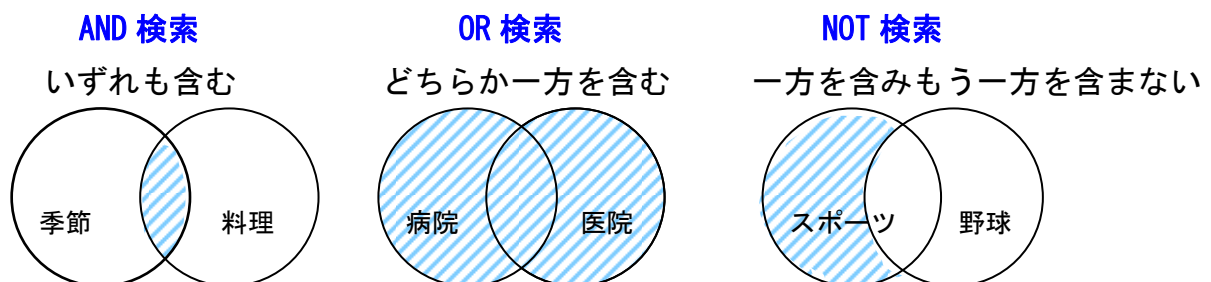
例：「季節 AND 料理」

OR 検索（どちらか一方を含む）

AとBのどちらか一方を含むものを検索したい場合には、OR（どちらか一方を含む）でつなぎます。 例：「病院 OR 医院」

NOT 検索（一方を含みもう一方を含まない）

AのうちBだけを除いたものを検索したい場合には、NOT（一方を含みもう一方を含まない）でつなぎます。 例：「スポーツ NOT 野球」



3. 部分一致や完全一致を利用する

検索語としたい単語があいまいな場合には、検索語の一部分のみを入力して検索することもできます。これをトランケーションと呼び、アスタリスク（*）などの記号を単語の前や後ろに付けることによって、任意の文字列の代わりに働きをしてくれるので、検索の漏れを防ぐことができます。例えば、「biochem*」と入力して検索すると「biochemistry」や「biochemical」なども検索できます。

また、逆に検索結果にノイズと呼ばれる全く関係の無いごみのデータまで含んでしまう場合は、スラッシュ（/）などの記号を付けることによって、検索語を特定して検索することができます。例えば「看護」という雑誌の論文を探す場合には「/看護/」と入力して検索すると「小児看護」や「看護の科学」などは除くことができます。

なお、これらの使用する記号は各データベースによって異なりますので、各データベースの説明を参照してください。

4. 絞り込む

検索結果の中からより自分の目的に合ったものを選び出す方法として、「絞り込み」という機能があります。絞り込みでは検索結果にさらに刊年や著者名、論文の種類などの条件を追加して、求める条件にあったものだけを抽出します。

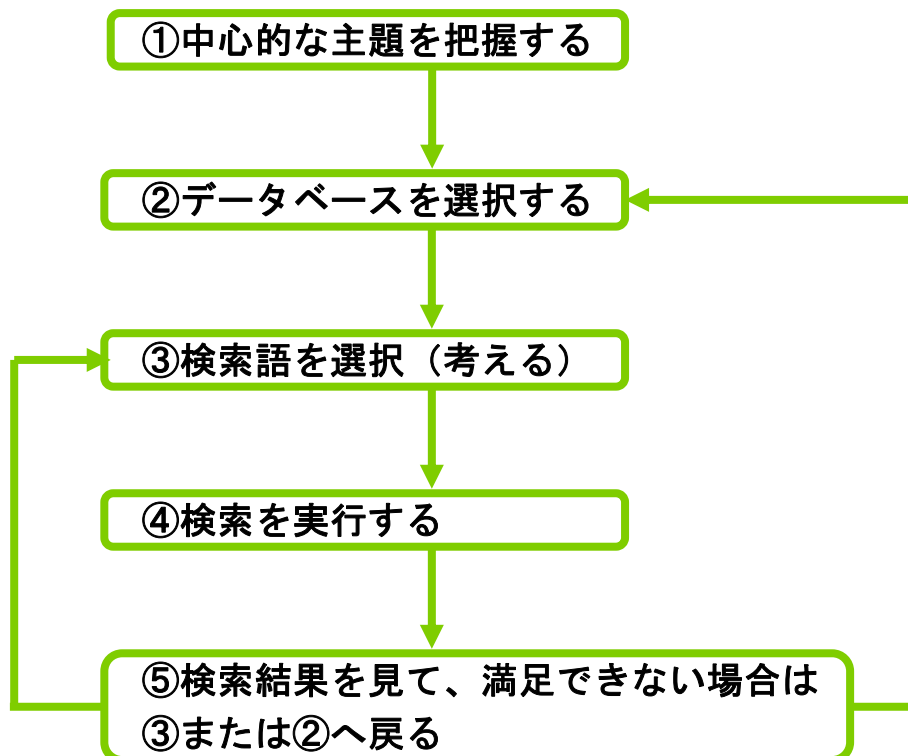
5. 並び替える

各データベースには検索結果の並び替え（ソート）機能があり、検索結果を新しい順に並べ替えたり、著者名順や掲載雑誌名順などに並べ替えたりすることにより、検索結果を整理して一覧することができます。



● データベース検索の流れ

各種データベースを利用するには、その内容や特徴、収録年などを考えて使い分ける必要があります。また、場合によっては複数のデータベースまたは冊子体の二次資料と呼ばれる文献目録などを利用することも有功です。データベース検索のために、次のような手順を覚えておきましょう。



検索の仕方によっては、検索結果が数百件もあって、全く関係のない情報も含まれてしまうことがあります。逆に検索結果がゼロ件、または数件となってしまう、必要なものを漏らしてしまうこともあります。論理演算や絞り込みなどを上手に使うと、効率的な検索を身に付けましょう。

それでは次ページからそれぞれのデータベースの検索方法について見ていきましょう

